

「地方創生シンポジウム 住宅都市における持続可能なコミュニティについて」を開催!

日時:平成29年2月1日(水)13時30分～16時00分 場所:生駒市コミュニティセンター文化ホール

参加者:206名 市民、自治体職員、空き家の利活用に取り組む活動団体等

住宅都市における持続可能なコミュニティの課題解決策を生駒市民や同様の課題を持つ全国の自治体と共有をするため、シンポジウムを開催しました。



第1部 調査報告

持続可能なコミュニティの在り方に関する調査研究の結果を生駒市と藤沢市が報告しました。

- 奈良県生駒市:～空き家の利活用を考える～「空き家の利活用による地域活性化の可能性」(小紫雅史・生駒市長)
- 神奈川県藤沢市:「少子高齢社会における持続可能なコミュニティの形成について」(杉淵武氏・藤沢市企画政策部企画政策課専任研究員)

第2部 パネルディスカッション

「住み続けたいまち」をテーマに、先進的な取り組みを行っている4団体が活動内容を発表し、地域コミュニティにおける支え合いや持続可能なコミュニティ形成における空き家利活用の可能性についてディスカッションしました。

【コーディネーター】久隆浩氏(近畿大学総合社会学部教授) 【パネリスト】*あいうえお順

■ 有江正太氏(NPO法人空き家コンシェルジュ代表理事)

所有者の想いや状況から買い主の状況等に寄り添いながら相談に乗り、様々な問題をひとつひとつクリアにしていけないと空き家解決にはつながらない。そのための総合的な相談や対応をしている。借り手になる人には自治会など地域に入ってもらうことを条件としている。

■ 岡本聡子氏(NPO法人ふらっとスペース金剛代表理事)

富田林市にある民家を借りて子育て支援の拠点を運営。地域に活動を理解してもらうため、清掃に参加したり、自治会の役員を受けた。また、自治会等の会議の場所として拠点を使ってもらったこともあった。そうすることで少しずつ周りの理解を得てきた。

■ 小紫雅史(生駒市長)

空き家対策をコミュニティの中でしっかりと考えていきたい。高齢者同士や、高齢者・子育て世代の相互の助け合い、NPOなどとの幅広い交流ができる関係づくりを進めることで、今住んでいる人が楽しみながらまちづくりに参加するようになり、その結果、生駒は良いまちだと認知され新しい移住につながると思う。

■ 杉淵武氏(藤沢市企画政策部企画政策課 専任研究員)

これからのコミュニティにとっては、居場所づくりが大切である。藤沢市には、空き家を活用した居場所があり活発に利用されている。居場所を通してのつながりを深めるには、橋渡しの役を担う人、キーパーソン存在が大きい。そのような人が、机上で学ぶのではなく、現場での経験を生かし、つながりを作ることが大切である。

■ 西上孔雄氏(泉北ニュータウンリノベーション協議会理事)

30代40代で住宅をリノベーションして住む人は案外増えている。新しいものを手に入れたいというより、自分たちが使い勝手のいいように変えていきたいと考える人も増えてきている。一方泉北ニュータウンは、働く場所がないので、家の中に働く場を作れるような職住一体の提案もしている。

■ 樋口敬子氏(社会福祉法人藤沢市社会福祉協議会地域福祉課 課長補佐)

地域は自らが答えをだし、その答えは足元にある。地域には、地域のことを真剣に考え、さまざまな活動をしている人が大勢いて、地域を元気にする知恵や魅力がたくさんある。コミュニティソーシャルワーカーは、地域の人たちが当たり前になっていることの価値に改めて気づく役割とも感じている。

■ 久隆浩氏(近畿大学総合社会学部教授)

空き家をどう活用するかは、そのまちの「暮らし」をどう考えるかと繋がる。これまでサラリーマン中心だったニュータウンにも、色々な働き方、暮らし方の人が増えてきている。多様な人が互いの技能技術を出し合うことで互いの自立を支え合う、そのような繋がりや関係が増えていけばよいと思う。



岡本聡子



杉淵武



樋口敬子



久隆浩



有江正太



小紫雅史



西上孔雄